

令和3年度 予算施策評価表

様式1

施策名	人材の資質・能力向上				予算施策コード	ks04
担当部局名	警察本部	警務課	評価責任者	理事官 逢阪 良昭	連絡先	5300

1 施策の内容

施策の目標	複雑多様化する警察事象に的確に対応し、身近な日常生活の安全安心を確保して県民の期待と信頼に応えるため、優秀な人材の確保、職員の士気高揚、健康管理対策等を推進し、警察力の質的な強化を図る。
これまでの取組み	<ul style="list-style-type: none"> ○優秀で適格性のある人材の確保に向け幅広い採用募集活動を行い、令和3年度中445人を受験させるとともに、時代のニーズに応える多様な人材の確保に努めた。 ○部内通訳員2人に対して語学研修を受講させて能力向上を図った。 ○職員が心身ともに健康で、能力を遺憾なく発揮できるようにさせるため、定期健康診断、職務に合った特別検診、特定保健指導及び部外カウンセラー等による随時相談等を実施した。 ○永年勤続、勤務成績優秀、事件解決等で功労が認められる警察職員及び部署に対して、約5,600件の表彰を実施し、士気の高揚を図った。

成果指標名(目標の達成度合いを示す指標)

A	警察官採用者倍率				B	職員1人あたりの医療給付額					
選択理由	優秀で適格性を有する者を採用して警察の総合力を向上させるためには、県内外の幅広い採用候補者を募る必要があるため、採用者倍率を指標とした。				選択理由	職員が心身ともに健康で、その能力を遺憾なく発揮させるためには、健康診断等有所見者の早期発見・早期治療を行う必要があり、それにより職員1人当たりの医療費も減少することから、指標とするもの。					
算定方法	受験者数/採用者数				算定方法	総医療給付額/職員数					
成果と指標の関係	強	指標の種類(ストック/フロー)	フロー	指標の種類(プラス/マイナス)	+	成果と指標の関係	中	指標の種類(ストック/フロー)	フロー	指標の種類(プラス/マイナス)	-

指標・事業費・人件費の推移

区分	成果指標A			成果指標B			事業費(予算)				事業費(決算)	人件費
	計画	実績	達成率	計画	実績	達成率	予算計	国費	その他	県費		
単位	倍(年度)			円(年度)			千円					
元年度	10	5.4	54.0%	97,300	106,528	91.3%	61,836	4,317		57,519		72,826
2年度	10	4.5	45.0%	98,300	107,719	91.3%	63,290	4,467		58,823	50,337	72,398
3年度	10	5.2	52.0%	98,300	107,036	91.8%	64,552	4,396		60,156	51,917	64,130
4年度 目標値	5.0			95,708			60,670	3,672		56,998		
最終目標	-			-								

4年度当初予算

2 施策の評価

県の関与の必要性		説明	犯罪情勢や社会構造の変化に伴い、警察活動を取り巻く環境は非常に複雑になってきており、近年はストーカー・DV事案等の人身安全関連事案にかかる総取扱件数が増加するなど、県民の警察に対する要請が多様化している。こうした中、厳しい治安情勢に的確に対応し、県民の安心・安全を確保するためには、優秀な人材を確保するとともに、警察職員の資質と能力を向上させ、強靱な執行力を備えた精強な警察組織を構築する必要があり、県が関与すべき必要性が高い。				
高い							
成果指標A		説明	採用をめぐる情勢については、大量退職、大量採用時代に加え、就職適齢人口の減少等により厳しい状況にあり、優秀な人材を確保するため、受験者の一層の確保に努めた。近年の景気の回復傾向等に伴う有効求人倍率の向上を受け、採用募集活動を取り巻く情勢は、ますます厳しい状況になっている。こうした中、今後の採用募集活動においては、警察官の魅力アピールし、他の職種との差別化を図るための新たな企画や効果的な情報媒体の活用等に取り組んでおり、これにより受験者の増加や優秀な人材の確保につながるなど、ある程度の成果向上が見込まれる。 なお、警察官採用者倍率は、高い水準を目指すべき指標であるが、最終目標の設定にはなじまないため設定しない。				
成果動向	順調でない						
成果向上余地	成果向上が可能						
成果指標B		説明	警察においては、社会情勢の変化等に伴って増加した業務への対応等による超過勤務の多い職員を中心に、運動不足や不規則な食生活等の偏った生活習慣等により、長期療養を必要とする疾病にかかる職員が存在するところであり、特に本県では、職員1人当たりの医療給付額が全国平均を上回るなど、成果動向としては横這いである。今後も、超過勤務の上限規制を見据えた取組みや健康づくり運動等の各種施策を行うとともに、定期健康診断受診の徹底により、疾病等の早期発見、早期治療に努める。なお、状況は緩やかに改善されていることから、これら施策の継続実施により、成果向上が見込まれる。 なお、職員1人当たりの医療給付額は、減少を目指すべき指標であるが、最終目標の設定にはなじまないため設定しない。				
成果動向	横這い						
成果向上余地	成果向上が可能						
参考：構成事務事業の評価の平均値	成果動向	2.00	順調・向上	成果向上余地	1.75	成果向上が可能	

今後予測される環境変化	警察官の採用に関しては、少子高齢化に伴う就職適齢人口の減少や景気回復傾向による民間等他業種への就職増加など、厳しい環境となることが予想されるが、組織的かつ効果的な情報発信や採用募集活動に積極的に取り組むことにより、採用申込者や受験者を確保し、優秀な人材確保に努める。また、社会情勢の変化にともない警察事象が複雑化・多様化し、業務も増加傾向にあることから、業務過多や不規則な生活により体調を崩す職員の増加が予想されるため、引き続き健康管理対策が必要である。
-------------	---

3 施策の今後の方向性

<p>少子高齢化に伴う就職適齢人口の減少や大量退職、大量採用期が継続している中、一定の警察力を維持するためには、警察官としての資質ある優秀な人材を確保するとともに、ワークライフバランスの実現等により、警察官の士気高揚を図り、第一線現場の警察官個々の執行力、業務遂行能力を高めることが不可欠である。したがって、人材の確保・育成のための各種施策の事業水準は現状維持としつつ、事業費の効率的な執行に努め、内部経費については抑制に努めることとする。</p>
--

4-1 事務事業管理シート（評価対象事業）

										予算施策名					ks04 人材の資質・能力向上				
1 警察活動費（補助）人材の確保		指標動向	R元年度	R2年度	R3年度	R4年度	最終目標 (R?)	コスト (単位：千円)	R元年度	R2年度	R3年度	R4年度	成果動向	2成果低迷している	向上余地	2一定の成果向上余地あり			
指標種類1	指標名称1	単位	計画	10.0	10.0	10.0	5.0	事業費計	8,636	8,935	8,792	7,344	評価	少子高齢化による就職適齢人口の減少や民間企業の雇用情勢改善に加え、R2年度とR3年度と2年連続してコロナウイルス感染症拡大による採用試験日程の延期などの影響を受け、申込者数の前年比は大卒-39人、高卒-16人となっており、採用(受験)倍率は微増しているものの、近年、成果は低迷している。					
成果	+ 70-	警察官採用者倍率	倍	実績	5.4	4.5	5.2	国費	4,317	4,467	4,396	3,672							
				達成率	54.00%	45.00%	52.00%	その他											
				計画				県費	4,319	4,468	4,396	3,672							
指標種類2	指標名称2	単位	計画				計画無	事業費計	8,636	7,935	7,792	見直し方向性					方向1 このまま継続 方向2 方向3	本事業は、警察力の根幹である警察職員の採用に要する経費であり、優秀な人材を確保して警察の総合力を向上させる必要があるため、このまま継続する。	
活動	70-	警察官（大卒）受験申込者数	人	実績	310	310	271	国費	4,313	4,463	4,396								
				達成率	-	-	-	その他	8	9	1								
				計画				県費	4,315	3,463	3,395								
指標種類3	指標名称3	単位	計画				計画無	人役	5.3	5.3	5.3								
活動	70-	警察官（高校卒）受験申込者数	人	実績	319	367	351	人件費	36,072	35,860	32,065								
				達成率	-	-	-												
				計画															
実施期間	初期	終期	事業の概要																
S29	-		採用試験における優秀な人材確保により、治安の維持を図り、県民が安全で安心して暮らせる生活を確保するために、強力な募集動員活動を推進し、真に警察官として適格性を有する人材を採用するため、厳正公平な採用試験を実施する必要がある。																
2 警察職員等表彰関係費		指標動向	R元年度	R2年度	R3年度	R4年度	最終目標 (R?)	コスト (単位：千円)	R元年度	R2年度	R3年度	R4年度	成果動向	4成果順調である	向上余地	1成果向上余地が小さい			
指標種類1	指標名称1	単位	計画	85	85	85	85	事業費計	1,322	1,289	1,391	1,278	評価	表彰による職員の士気高揚は過去3年間で向上して計画値を超えており成果は順調である。部外協力者への表彰件数は、計画の70%程度達成しており、成果向上の余地は小さい。					
成果	+ 70-	受賞後に職員の士気高揚が図れた割合	%	実績	65	86	86	国費											
				達成率	76.47%	101.18%	101.18%	その他											
				計画	5,500	5,500	5,500	県費	1,322	1,289	1,391	1,278							
指標種類2	指標名称2	単位	計画				計画無	事業費計	1,184	1,109	1,188	見直し方向性					方向1 このまま継続 方向2 方向3	本事業では、警察行政に対し協力のあった部外協力者に対する表彰に要する経費が含まれており、今後も警察として部外協力者に対して感謝の意を表す必要があるため、このまま継続する。	
活動	+ 70-	警察職員、部署への表彰数	件	実績	6,100	5,064	5,580	国費											
				達成率	110.91%	92.07%	101.45%	その他	1,184	1,109	1,188								
				計画	450	450	450	県費	1,184	1,109	1,188								
指標種類3	指標名称3	単位	計画				計画無	人役	2.0	2.0	2.0								
活動	+ 70-	警察部外協力者への表彰数	件	実績	356	375	308	人件費	13,612	13,532	12,100								
				達成率	79.11%	83.33%	68.44%												
				計画															
実施期間	初期	終期	事業の概要																
S29	-		警察職員及び部署の警察業務に対する功労について表彰を行い、士気の高揚を図るもの。また、警察部外協力者の警察行政各般への協力に対し、感謝の意を表して表彰を行い、引き続きの協力を得るもの。																
3 警察職員厚生経費		指標動向	R元年度	R2年度	R3年度	R4年度	最終目標 (R?)	コスト (単位：千円)	R元年度	R2年度	R3年度	R4年度	成果動向	3成果横ばい	向上余地	2一定の成果向上余地あり			
指標種類1	指標名称1	単位	計画	97,300	98,300	98,300	95,708	事業費計	51,365	52,551	54,217	51,896	評価	職員1人当たりの医療給付額は、過去3年間計画値を超過しており、一定の成果向上の余地が認められる。また、定期健康診断受診者数はほぼ計画どおりであり効果がでている。					
成果	- 70-	職員1人当たりの医療給付額	円	実績	106,528	107,719	107,036	国費											
				達成率	91.34%	91.26%	91.84%	その他											
				計画	2,429	2,489	2,560	県費	51,365	52,551	54,217	51,896							
指標種類2	指標名称2	単位	計画				計画無	事業費計	41,994	40,781	42,785	見直し方向性					方向1 このまま継続 方向2 方向3	本事業は、職員の健康管理に要する経費であり、職員が健康な状態で勤務することで県民の安全安心に資する必要があるため、このまま継続する。	
活動	+ 70-	定期健康診断受診者数	人	実績	2,429	2,489	2,496	国費											
				達成率	100.00%	100.00%	97.50%	その他	41,994	40,781	42,785								
				計画				県費	41,994	40,781	42,785								
指標種類3	指標名称3	単位	計画				計画無	人役	3.2	3.2	3.2								
活動				実績				人件費	21,780	21,652	19,360								
				達成率	-	-	-												
				計画															
実施期間	初期	終期	事業の概要																
S29	-		毎年定期的に健康診断を実施することで、生命にかかわる疾病の早期発見、早期治療につなげるだけでなく、良好な健康状態を継続することで仕事の効率化に役立てる。																

4 外事犯罪対策費				指標動向	R元年度	R2年度	R3年度	R4年度	最終目標 (R?)	コスト (単位：千円)	R元年度	R2年度	R3年度	R4年度	成果 動向	3成果横ばい	向上 余地	2一定の成果向上余 地あり								
指標種類1	指標名称1			単位	計画	60	60	60	60	事業費計	152	154	152	152	評価	部内通訳員の通訳業務従事率は、過去3年間80%以上で、高い水準を維持している。今後も外国人犯罪の増加により、一定の成果向上余地が認められる。										
成果	+	70-	部内通訳員の通訳業務従事状況	%	実績	83	80	84			国費															
					達成率	138.33%	133.33%	140.00%		その他																
指標種類2	指標名称2			単位	計画	2	2	2	2	事業費計	152	152	152	見直し 方向性					方向1 このまま継続 方向2 方向3							
活動	+	70-	研修受講者数	人	実績	2	2	2			国費															
					達成率	100.00%	100.00%	100.00%		その他																
指標種類3	指標名称3			単位	計画	24	24	24	25	事業費計	152	152	152									見直し 方向性	本事業は、部内通訳員の通訳能力向上に要する経費であり、今後もオンライン等を活用した効果的な研修方法を研鑽し、通訳員の実務能力の向上を図る必要があるため、このまま継続する。			
活動	+	70-	研修の受講時間	時間	実績	25	25	25			国費															
					達成率	104.17%	104.17%	104.17%		その他																
事業の概要											人役	0.1	0.1													0.1
実施期間	始期	終期	国際化に対応するため、通訳・翻訳業務体制の充実が急務となっており、本事業は、令和2年度までの事業を踏まえ、外国人犯罪及び外国人が絡む各種警察事案に的確に対応するため、語学研修を実施し、高度な通訳能力を備えた部内通訳員の養成を図るものである。							人件費	681	677	609													